



太洋物産株式会社

2026年 9月期 第1四半期 決算説明資料

太洋物産株式会社 (東証スタンダード:9941)

2026年 2月 25日

# 会社概要



会社名	太洋物産株式会社 TAIYO BUSSAN KAISHA, LTD.
証券コード	9941 (東京証券取引所 スタンダード)
設立	1941年4月12日 (創業 1936年10月)
本社所在地	東京都新宿区市谷砂土原町3-5 偕成ビル5階
資本金	257,792,800円 (2025年12月31日時点)
従業員数	28名 (2025年12月31日時点)
事業内容	貿易商社 農畜産物を中心とした輸出入事業
取締役	<p>松島 伸介 代表取締役社長</p> <p>長崎 旭倫 (姜偉) 取締役</p> <p>横山 友之 取締役 監査等委員 社外 独立役員</p> <p>大下 良仁 取締役 監査等委員 社外 独立役員</p> <p>上楽 裕三 取締役 監査等委員 社外 独立役員</p>

前年同期比：売上高は減収となった一方、売上総利益は前年並みとなり、販売管理費の圧縮により営業利益は増益となりました。

## 売上高

**4,873**百万円

前年同期対比  
82.7%

通期予想進捗率  
19.5%

食料部が増収となった一方、生活産業部の輸入豚肉において売上高・取扱数量ともに減少したこと、中国開拓部において中国向けの輸出取引・三国間取引を中心に売上高・取扱数量ともに減少となったこと、農産部が大豆等の産地価格の高騰等により減少となり、全体で減収となりました。

通期予想に対する進捗率は19.5%となりました。

## 売上総利益

**198**百万円

前年同期対比  
99.5%

通期予想進捗率  
25.5%

当社は、高付加価値商品の提供につとめ、収益基盤の強化を目標とした経営を推進し、中期的に売上総利益率4%以上を目指しております。当第1四半期は、売上総利益率は4.1%となり、前年同期と比べて0.7ポイント改善しました。

通期予想に対する進捗率は25.5%となりました。

## 営業利益

**82**百万円

前年同期対比  
158.3%

通期予想進捗率  
28.6%

販売管理費は、株主優待に関する株式費用が減少したことにより全体で減少し、営業利益以下の各利益は増益となりました。

通期予想に対する進捗率は28.6%となりました。

# 2026年9月期 第1四半期(累計期間) 業績 前期対比

売上高は減収となった一方、売上総利益が前年並みとなり、販売管理費の圧縮により営業利益以下の各利益は増益となりました。

単位：百万円

	2025年9月期 第1四半期実績 (累計期間)	売上比	2026年9月期 第1四半期実績 (累計期間)	売上比	前期比	増減
売上高	5,891	100.0%	4,873	100.0%	82.7%	△1,018
売上原価	5,691	96.6%	4,674	95.9%	82.1%	△1,017
売上総利益	199	3.4%	198	4.1%	99.5%	△0
販売費及び一般管理費	147	2.5%	115	2.4%	78.6%	△31
営業利益	52	0.9%	82	1.7%	158.3%	30
経常利益	42	0.7%	61	1.3%	143.8%	18
四半期純利益	36	0.6%	50	1.0%	140.5%	14

食料部が増収となった一方、生活産業部の輸入豚肉において売上高・取扱数量ともに減少したこと、中国開拓部において中国向けの輸出取引・三国間取引を中心に売上高・取扱数量ともに減少となったこと、農産部が大豆等の産地価格の高騰等により減少となり、全体で減収となりました。

販売管理費は、株主優待に関する株式費用が減少したことにより全体で減少し、営業利益以下の各利益は増益となりました。

# 2026年9月期 第1四半期(累計期間) 業績 通期予想に対する進捗率

通期予想に対する進捗率は、売上高は19.5%、売上総利益は25.5%、営業利益は28.6%となりました。

単位：百万円

	2026年9月期 業績予想 (2025/11/14公表)	売上比	2026年9月期 第1四半期実績 (累計期間)	売上比	進捗率
売上高	25,052	100.0%	4,873	100.0%	19.5%
売上原価	24,273	96.9%	4,674	95.9%	19.3%
売上総利益	778	3.1%	198	4.1%	25.5%
販売費及び一般管理費	488	2.0%	115	2.4%	23.7%
営業利益	290	1.2%	82	1.7%	28.6%
経常利益	228	0.9%	61	1.3%	26.9%
当期(四半期)純利益	182	0.7%	50	1.0%	27.9%

# 2026年9月期 第1四半期 業績 四半期推移

単位：百万円

	2024年9月期					2025年9月期					2026年9月期	
	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	通期 実績	1Q 実績	通期 (予想)
売上高	4,417	5,153	4,511	4,674	18,758	5,891	4,362	3,793	5,613	19,662	4,873	25,052
売上原価	4,222	4,988	4,319	4,484	18,014	5,691	4,163	3,621	5,424	18,900	4,674	24,273
売上総利益	195	165	191	190	743	199	199	172	189	761	198	778
販売費及び一般管理費	130	124	110	111	477	147	124	108	133	513	115	488
営業利益	64	41	81	79	266	52	74	64	55	247	82	290
経常利益	49	30	65	57	202	42	50	42	38	173	61	228
四半期(当期)純利益	39	20	51	50	162	36	44	35	32	148	50	182
売上総利益率	4.4%	3.2%	4.3%	4.1%	3.9%	3.4%	4.6%	4.6%	3.4%	3.9%	4.1%	3.1%

# 2026年9月期 第1四半期(累計期間) セグメント情報

売上高：食料部が増収となった一方、生活産業部、中国開拓部、農産部が減収となったことにより、全体で減収となりました。

単位：百万円

セグメント	2025年9月期 第1四半期実績(累計期間)			2026年9月期 第1四半期実績(累計期間)							
	売上高	売上総利益	売上総利益率	売上高			売上総利益				
				構成比	前期差	前期比	売上総利益率	前期差	前期比		
牛肉	332	12	3.9%	538	11.1%	206	162.1%	16	3.0%	3	126.4%
牛肉その他	0	0	-	0	0.0%	0	-	0	-	0	-
加工食品	949	50	5.3%	1,027	21.1%	77	108.2%	61	6.0%	11	122.8%
輸入鶏肉	263	15	5.8%	391	8.0%	128	148.7%	22	5.7%	7	147.5%
鶏肉その他	25	3	11.8%	30	0.6%	4	117.4%	1	6.5%	△1	64.7%
国産鶏肉	579	20	3.6%	647	13.3%	67	111.7%	19	3.0%	△1	93.4%
食料部(①)	2,151	102	4.7%	2,635	54.1%	484	122.5%	121	4.6%	19	119.2%
農産部(②)	786	18	2.4%	509	10.5%	△276	64.8%	24	4.9%	6	134.0%
中国開拓部(③)	2,100	50	2.4%	1,538	31.6%	△562	73.2%	38	2.5%	△11	76.6%
豚肉	622	12	1.9%	84	1.7%	△537	13.6%	3	4.4%	△8	31.1%
化学品	166	15	9.6%	105	2.2%	△60	63.4%	9	9.5%	△5	62.5%
その他	65	0	1.2%	0	0.0%	△65	-	0	-	0	-
生活産業部(④)	853	28	3.4%	189	3.9%	△663	22.2%	13	7.2%	△14	47.7%
総合計(①②③④)	5,891	199	3.4%	4,873	100.0%	△1,018	82.7%	198	4.1%	△0	99.5%

牛肉は、アイテムの提案等により、売上高・取扱数量ともに増加となりました。  
輸入鶏肉は、利益率の高い商品・取引を積み上げることができた結果、売上高・取扱数量ともに増加となりました。  
国産鶏肉は、売上高・取扱数量ともに横ばいとなりました。  
タイ産加工食品は、新規商材の提案による利益率の高い商材の販売が成約した結果、売上高・取扱数量ともに増加となりました。

農産品は、大豆等の産地価格の高騰等により厳しい環境にあり減少となりました。

中国での美容や健康への需要は増加しているものの、中国のネット事業者向け商材の販売が販売体制の見直しにより、一時的に減少し、売上高・取扱数量が減少となりました。

輸入豚肉は、供給過多による在庫過剰、価格及び輸送コストの上昇が継続、需要減少により売上高・取扱数量ともに減少となりました。

※2024年12月27日「報告セグメントの変更に関するお知らせ」にて開示の通り、2025年9月期第2四半期より報告セグメントを変更しており、2025年9月1Q以前の数値につきましては、比較しやすいように2025年9月期第2四半期以降のセグメントの区分に組み替えた数値を表示しております。また、2025年12月26日「報告セグメントの変更に関するお知らせ」にて開示の通り、2026年9月期第2四半期より報告セグメントを変更いたします。具体的には、これまで生活産業部として取り扱っていた化学品を、第2四半期より中国開拓部として取り扱うことといたします。

# 2026年9月期 第1四半期(累計期間) セグメント情報 四半期推移

単位：百万円

セグメント	売上高												売上総利益											
	2024年9月期					2025年9月期					2026年9月期		2024年9月期					2025年9月期					2026年9月期	
	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	通期(予想)	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期実績	1Q実績	通期(予想)
牛肉	339	284	237	215	1,077	332	250	286	353	1,222	538	-	18	15	14	16	64	12	8	14	14	51	16	-
牛肉その他	179	14	33	41	268	0	0	0	0	0	0	-	4	△0	0	0	4	0	3	△3	0	0	0	-
加工食品	754	495	787	986	3,024	949	919	906	923	3,698	1,027	-	45	33	39	49	167	50	66	61	51	229	61	-
輸入鶏肉	262	384	330	356	1,335	263	220	272	503	1,259	391	-	15	18	22	14	70	15	6	14	18	55	22	-
鶏肉その他	18	0	25	23	67	25	14	17	62	120	30	-	6	△0	3	5	14	3	1	△1	6	10	1	-
国産鶏肉	229	237	456	522	1,445	579	590	648	689	2,508	647	-	11	11	17	19	60	20	18	18	18	76	19	-
食料部 <sup>(①)</sup>	1,784	1,417	1,871	2,145	7,219	2,151	1,995	2,131	2,532	8,810	2,635	-	100	77	98	105	382	102	105	105	109	422	121	-
農産部 <sup>(②)</sup>	705	604	896	812	3,019	786	509	540	937	2,774	509	-	35	6	32	30	105	18	22	24	32	98	24	-
中国開拓部 <sup>(③)</sup>	1,689	2,872	1,401	1,065	7,030	2,100	1,413	682	1,798	5,994	1,538	-	41	68	37	26	174	50	39	21	45	156	38	-
豚肉	145	173	201	465	986	622	373	359	270	1,626	84	-	14	6	9	13	44	12	11	9	8	41	3	-
化学品	92	86	131	185	494	166	71	78	75	391	105	-	6	6	13	14	42	15	20	12	△6	41	9	-
その他	0	0	8	0	8	65	0	0	0	65	0	-	△4	△0	△0	△0	△5	0	△0	0	△0	△0	0	-
生活産業部 <sup>(④)</sup>	237	259	341	650	1,489	853	444	438	346	2,083	189	-	17	11	23	28	80	28	31	21	1	83	13	-
総合計 <sup>(①②③④)</sup>	4,417	5,153	4,511	4,674	18,758	5,891	4,362	3,793	5,613	19,662	4,873	25,052	195	165	191	190	743	199	199	172	189	761	198	778

※2024年12月27日「報告セグメントの変更に関するお知らせ」にて開示の通り、2025年9月期第2四半期より報告セグメントを変更しており、2025年9月1Q以前の数値につきましては、比較しやすいように2025年9月期第2四半期以降のセグメントの区分に組み替えた数値を表示しております。また、2025年12月26日「報告セグメントの変更に関するお知らせ」にて開示の通り、2026年9月期第2四半期より報告セグメントを変更いたします。具体的には、これまで生活産業部として取り扱っていた化学品を、第2四半期より中国開拓部として取り扱うことといたします。

# 2026年9月期 第1四半期(累計期間) 販売費及び一般管理費

株主優待を廃止したことにより株式費用が減少し、販売管理費は全体で前年を下回りました。

単位：百万円

	2024年9月期					2025年9月期					2026年9月期	
	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	通期 実績	1Q 実績	通期 (予想)
人件費	55	54	53	52	216	52	53	51	53	210	52	-
旅費及び交通費	8	7	4	7	29	11	6	7	9	34	8	-
賃借料	4	4	4	4	18	4	4	4	4	18	4	-
支払報酬	15	16	20	17	70	19	19	17	22	78	19	-
減価償却費	1	1	1	1	5	1	1	1	1	5	1	-
株式費用	19	9	0	3	33	29	12	0	3	46	2	-
株式報酬費用	1	1	1	1	5	0	1	1	1	5	1	-
その他	24	28	23	22	98	28	25	23	36	114	25	-
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>130</b>	<b>124</b>	<b>110</b>	<b>111</b>	<b>477</b>	<b>147</b>	<b>124</b>	<b>108</b>	<b>133</b>	<b>513</b>	<b>115</b>	<b>488</b>
正社員数(四半期末・期末時点)	25名	25名	25名	25名	25名	25名	26名	28名	31名	31名	28名	-

・販売費及び一般管理費の内訳は、その大半が固定費であり、売上高による変動・季節変動は僅少です。2025年9月期からの3年程度は、正社員の増加に伴って緩やかに増加する見込みです。

・主要な科目の内容、増減要因等は以下の通りです。

人件費 … 2025年12月末時点で、正社員28名のうち、10名が営業職です。2026年9月期からの3年程度は、営業強化により每期2名程度の営業職の増員を計画しております。

株式費用 … 2026年9月期第1四半期は、株主優待に関する費用が減少したことにより減少しております。

旅費及び交通費 … 主に、従業員の営業活動によるものです。2026年9月期以降は、営業職社員数の増員により増加する見込みです。

# 2025年9月期 第1四半期(累計期間) 貸借対照表

自己資本比率は前期末に比べて+0.8%改善し、期末で12.4%となりました。

単位：百万円

	2025年9月期 期末	2026年9月期 第1四半期末	増減	%
流動資産	7,759	7,643	△116	98.5%
固定資産	604	600	△3	99.5%
流動負債	7,233	7,056	△176	97.6%
固定負債	137	140	3	102.3%
純資産	993	1,047	54	105.4%
総資産	8,363	8,244	△119	98.6%
現金及び預金	265	351	85	132.3%
有利子負債	5,907	5,607	△300	94.9%
自己資本比率	11.6%	12.4%	0.8%	106.9%
運転資金回転期間	3.72ヶ月	3.49ヶ月	△0.23ヶ月	93.7%

・受取手形及び売掛金(△359百万円)の減少

・短期借入金(△300百万円)の減少

・利益剰余金(+50百万円)の増加

・運転資金回転期間は、「(売上債権+棚卸資産-仕入債務)÷1月あたり売上高」で計算しております。

# 過去からの業績推移（1）

単位：百万円

	2019年9月期 実績	2020年9月期 実績	2021年9月期 実績	2022年9月期 実績	2023年9月期 実績	2024年9月期 実績	2025年9月期 実績	2026年9月期 通期業績予想
売上高	19,519	14,800	16,423	21,045	20,023	18,758	19,662	25,052
売上原価	18,932	14,577	15,781	20,296	19,411	18,014	18,900	24,273
売上総利益	586	222	642	749	612	743	761	778
販売費及び一般管理費	554	490	418	514	445	477	513	488
営業利益	32	△267	224	235	167	266	247	290
経常利益	△39	△323	171	173	131	202	173	228
当期純利益	△42	△391	113	133	116	162	148	182
1株当たり当期純利益	△32.11円	△294.79円	84.08円	81.75円	60.23円	84.20円	76.93円	94.36円

# 過去からの業績推移（2）

単位：百万円

セグメント	売上高								売上総利益							
	2019年 9月期 実績	2020年 9月期 実績	2021年 9月期 実績	2022年 9月期 実績	2023年 9月期 実績	2024年 9月期 実績	2025年 9月期 実績	2026年 9月期 1Q累計実績	2019年 9月期 実績	2020年 9月期 実績	2021年 9月期 実績	2022年 9月期 実績	2023年 9月期 実績	2024年 9月期 実績	2025年 9月期 実績	2026年 9月期 1Q累計実績
牛肉	3,670	2,263	2,303	1,896	1,753	1,077	1,222	538	70	54	62	48	72	64	51	16
牛肉その他	644	1,049	953	790	389	268	0	0	10	27	17	14	7	4	0	0
加工食品	2,432	1,082	1,611	1,592	2,122	3,024	3,698	1,027	101	△109	94	252	161	167	229	61
輸入鶏肉	4,982	4,276	4,821	5,314	2,423	1,335	1,259	391	173	80	235	42	△10	70	55	22
鶏肉その他	-	-	-	426	448	67	120	30	-	-	-	88	30	14	10	1
国産鶏肉	-	-	-	-	693	1,445	2,508	647	-	-	-	-	34	60	76	19
食料部(①)	11,728	8,671	9,690	10,020	7,832	7,219	8,810	2,635	355	52	410	446	296	382	422	121
農産部(②)	1,386	1,362	1,474	2,029	2,712	3,019	2,774	509	49	39	62	77	79	105	98	24
中国開拓部(③)	788	1,330	3,764	5,804	6,240	7,030	5,994	1,538	29	25	106	127	126	174	156	38
豚肉	4,739	2,940	1,170	2,542	2,747	986	1,626	84	85	68	28	55	82	44	41	3
化学品	481	472	323	619	489	494	391	105	46	37	36	46	30	42	41	9
その他	394	23	0	29	2	8	65	0	20	0	△0	△3	△2	△5	△0	0
生活産業部(④)	5,615	3,436	1,494	3,191	3,238	1,489	2,083	189	151	105	63	98	110	80	83	13
総合計(①②③④)	19,519	14,800	16,423	21,045	20,023	18,758	19,662	4,873	586	222	642	749	612	743	761	198

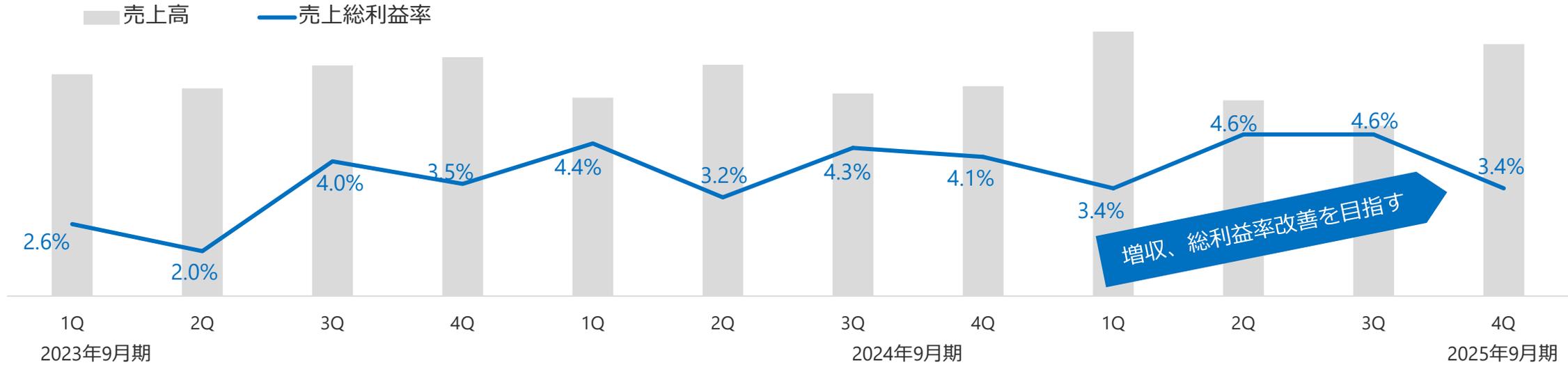
※2024年12月27日「報告セグメントの変更に関するお知らせ」にて開示の通り、2025年9月期第2四半期より報告セグメントを変更しており、2025年9月1Q以前の数値につきましては、比較しやすいように2025年9月期第2四半期以降のセグメントの区分に組み替えた数値を表示しております。また、2025年12月26日「報告セグメントの変更に関するお知らせ」にて開示の通り、2026年9月期第2四半期より報告セグメントを変更いたします。具体的には、これまで生活産業部として取り扱っていた化学品を、第2四半期より中国開拓部として取り扱うことといたします。

①安定的な利益の獲得及び取扱商材の拡充、②資金効率を鑑みた取扱品目の取捨選択、③新規事業の取扱強化によって着実な利益を積み上げることにより、売上高**250億円**(前期比+27.4%)、営業利益**2.9億円**(前期比+17.2%)を目指します。

単位：百万円

	2025年9月期 実績	売上比	2026年9月期 業績予想	売上比	前期比	増減額
売上高	19,662	100.0%	25,052	100.0%	127.4%	5,390
売上原価	18,900	96.1%	24,273	96.9%	128.4%	5,372
売上総利益	761	3.9%	778	3.1%	102.3%	17
販売費及び一般管理費	513	2.6%	488	2.0%	95.2%	△24
営業利益	247	1.3%	290	1.2%	117.2%	42
経常利益	173	0.9%	228	0.9%	131.2%	54
当期純利益	148	0.8%	182	0.7%	122.6%	33
1株当たり当期純利益	76.93円	-	94.36円	-	-	-
1株当たり配当金	0.00円	-	0.00円	-	-	-

ロシア・ウクライナ情勢の長期化も含めた資源価格の上昇や為替相場の変動等、2025年11月時点の状況が継続するものと想定



## 外部環境の前提

ロシアによるウクライナ侵攻の長期化も含めた資源価額の上昇や為替相場の変動等が及ぼす影響は、2025年11月時点の厳しい経営環境が継続するものと想定

## <主な政策>

### ① 安定的な利益の獲得及び商材取扱の拡充

安定的な利益を確保するため、農産品の取扱拡充及び外食産業の海外出店サポートの拡充を目指してまいります。

### ② 資金効率を鑑みた取扱品目の取捨選択

資金効率の観点からは、国産鶏肉等の国内取引拡大をすることにより、安定的な利益の確保を目指してまいります。

### ③ 新規事業の取扱強化

第三者割当増資によって調達した資金をもとに、越境EC等の新規事業の推進、中国現地法人の事業の推進、中国事業の拡充、ラーメンブランドの海外展開による収益事業の拡大等により、財務基盤の強化を目指してまいります。

## ■ 総資産回転率を最重視した販売先・仕入先・商材の選定

当社は、総資産回転率の向上を重視し、販売先・仕入先・商材の選定を行っています。具体的には、仕入から販売までが短期間であり、余剰在庫を持たない取引を優先して新規取引を獲得していく方針です。

これにより、総資産回転率の向上を図るとともに、在庫リスク、為替変動リスクを抑制してまいります。

## ■ 競合の回避

当社は、同業他社との競合により価格競争に陥る状態を極力回避することを基本戦略としております。

その実現のため、国内・海外に幅広い販売先・仕入先の新規開拓に取り組むとともに、既存の取引において同業他社との競合が発生した場合には、随時取引内容や取扱商材の見直しを図るなどの取捨選択を実施しております。

## ■ 食料部セグメント：国内飲食店チェーン 海外出店を対象とした販売強化

日本の飲食チェーンによる海外出店は年々増加しており、国内大手の海外店舗比率は2023年度に初めて4割を超えたと言われています(日本経済新聞)。今後もこの傾向は継続するものと考えられますが、海外出店した店舗向けに、多様な仕入先を持つ鶏肉・豚肉・牛肉・加工食品を販売することで当社の強みを発揮できると考えており、その販路拡大に向けて営業強化を行ってまいります。

## ■ 仕入先の選定

世界的な原材料の高騰が進むなかで、当社が同業他社に対する価格競争力を高めるためには、適宜、仕入を行う国の選定の見直しを行うことが重要であると考えております。引き続き、常に新しい仕入先の開拓ならびに三国間取引の強化に取り組んでまいります。

# 重要な経営指標について

当社は、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等として、売上総利益率を重視しており、経営目標において売上総利益率を4%と設定しております。

2025年9月期実績は3.9%となり、前年に続いて目標に近い水準を維持する結果となりました。現時点では、この水準が適正値であると考えております。2026年9月期業績予想における売上総利益は3.1%と保守的に設定しておりますが、引き続き、①安定的な利益の獲得及び取扱商材の拡充、②資金効率を鑑みた取扱品目の取捨選択、③新規事業の取扱強化によって着実な利益を積み上げることにより、売上総利益率4.0%の水準維持に取り組んでまいります。

単位：百万円

	2020年9月期 実績	2021年9月期 実績	2022年9月期 実績	2023年9月期 実績	2024年9月期 実績	2025年9月期 実績	2026年9月期 業績予想	前期比	増減
売上高	14,800	16,423	21,045	20,023	18,758	19,662	25,052	127.4%	5,390
売上総利益	222	642	749	612	743	761	778	102.3%	17
売上総利益率	1.5%	3.9%	3.5%	3.0%	3.9%	3.9%	3.1%	-	-

内部留保の確保により財務体質の改善を図り、自己資本比率20%を目指してまいります。

当社は、財務体質の改善を経営課題としており、中長期の目標として自己資本比率 20%を設定しています。

具体的には事業成長を通じて利益の拡大を図り、剰余金は内部留保を優先する方針です。

	2020年9月期 実績	2021年9月期 実績	2022年9月期 実績	2023年9月期 実績	2024年9月期 実績	2025年9月期 実績	目標
自己資本比率	—	1.3%	6.7%	8.7%	9.7%	11.6%	20.0%

当面は自己資本比率の改善を優先、将来的には復配を検討してまいります。

当社は、株主への利益還元については重要な経営課題と認識しております。

2008年9月期(第68期)に1株当たり6.5円の期末配当を実施したことを最後に、無配としてまいりました。現在は、財務基盤を盤石なものとするを最優先といたしたく、無配とさせていただきますが、将来的には経営成績及び財政状態を勘案しつつ、剰余金の分配を検討する所存であります。

貿易商社として、農畜産物を中心とした輸出入事業を展開しています。

## 輸入事業

食品（鶏肉、豚肉、牛肉）  
穀物（大豆、そば）  
加工食品 など



## 三国間貿易

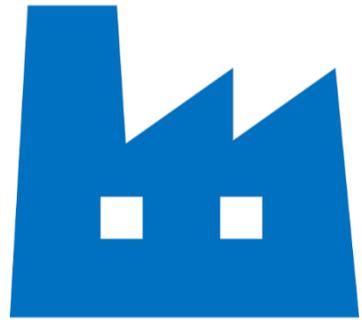
砂糖、化粧品など

## 輸出事業

化学品（化粧品原料、健康食品原料）  
産業機器、自動車  
生活用品 など



海外製造工場からの輸入： 仕入相場・為替相場の変動リスク低減、運転資金の回転率向上が重要



## 海外製造工場

飼育 → 加工 → 輸出



## 太洋物産株式会社

船荷 → 通関 → 倉庫



## 国内販売先

外食産業（レストランなど）メーカー（ハム・ソーセージ・大豆・蕎麦）卸会社

◆課題  
仕入相場の変動  
為替相場の変動  
運転資金の回転率向上

◆対策  
仕入産地の拡大  
在庫保有量の調整  
注力商材の機動的な入れ替え

食料部	アメリカ・オーストラリア・メキシコ・ブラジル・中国など	牛肉・豚肉・羊肉・加熱加工品・ペットフードなど
農産部	アメリカ・カナダ・中国・東南アジア諸国など	大豆・脱脂大豆・蕎麦・緑豆など
生活産業部	スペイン・メキシコ・カナダ・韓国など	豚肉、加工加熱品など

メーカー・ディーラーからの仕入： 為替相場の変動リスク低減、多種多様なニーズへの対応が重要



**メーカー**

化粧品原料  
健康食品原料



仕入



**太洋物産株式会社**

船荷 → 通関 → 輸出



輸出・販売

**海外販売先**

中国・インドなど



**自動車ディーラー**

高級輸入車

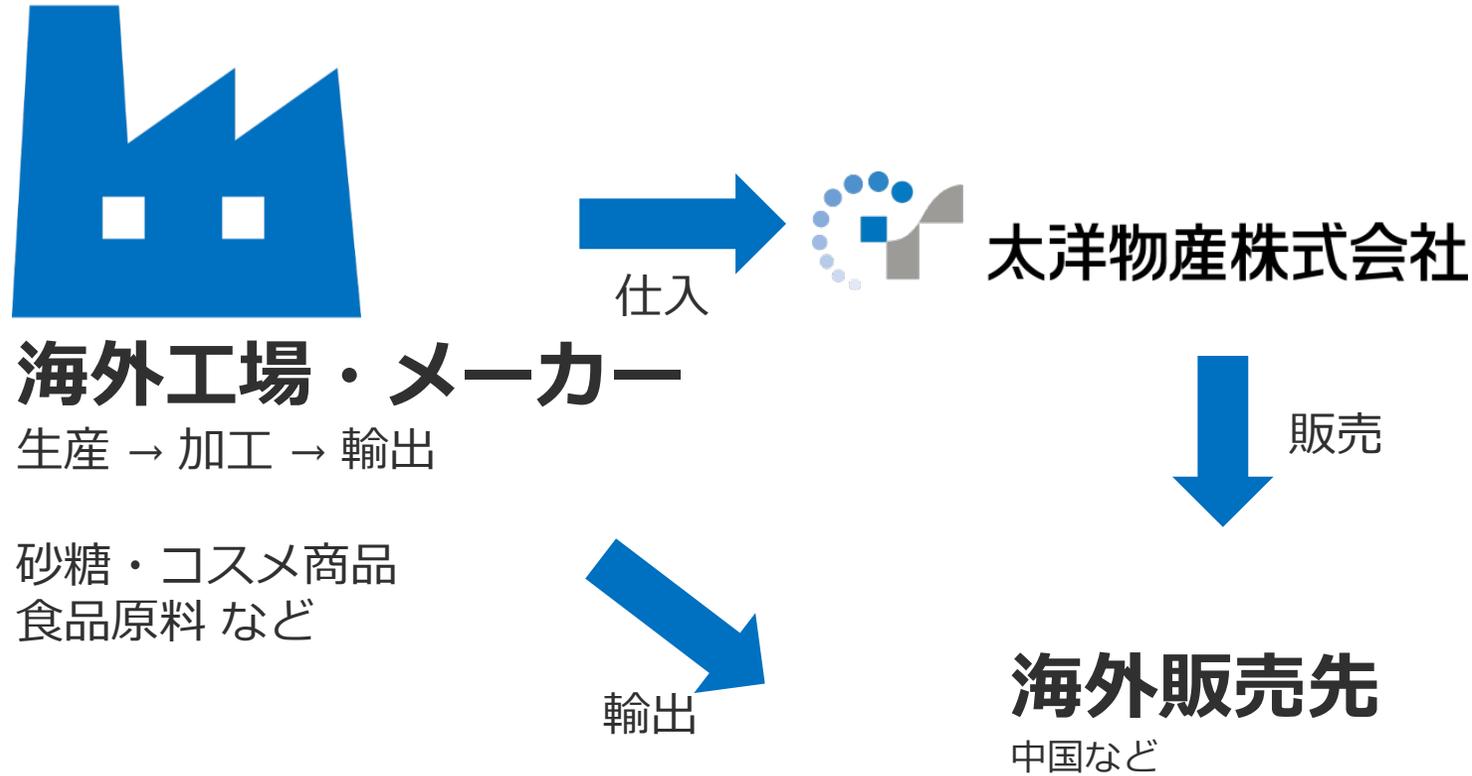


仕入

◆課題  
為替相場の変動  
多種多様なニーズへの対応

◆対策  
円安継続を見越して拡大  
国内メーカー等からの販売代理に着手  
ECの積極活用

海外工場・メーカーからの仕入・輸出： 手続きの複雑化、信頼性の確保が重要



◆課題  
手続きの複雑化  
信頼性の確保

◆対策  
熟練人材を配置  
取引実績を基に仕入先を厳選

1936年 太洋物産合資会社設立（当時の東京市麹町区丸ノ内にて創業）

1941年 株式会社に改組（設立）

1953年 中華人民共和国との貿易事業開始

1993年 日本証券業協会に店頭登録

1995年 米国・シアトルに駐在員事務所を開設

2001年 米国・シアトルの駐在員事務所を改組、太洋物産USAを設立（現在は清算）

2003年 中国・上海市に駐在員事務所を開設（現在は閉鎖）

2004年 ジャスダック証券取引所に株式上場（証券コード：9941）

2006年 インド・デリー市に連絡所を開設（現在は閉鎖）

2008年 中国・上海市に上海太洋栄光商業有限公司を設立

2020年 本社事務所を現在の東京都新宿区市谷砂土原町に移転

## 将来予測について

本資料で提供されている情報には、将来の見通しに関する情報が含まれています。これら以外の情報は、当社が属する業界の競争、市場、諸制度に係るリスクや不確実性による影響を受ける可能性があります。その結果、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定および推測に基づく見込みは、将来における実際の成果および業績とは異なる場合があります。ご了承ください。

## 本資料および当社IRに関するお問い合わせ先

太洋物産株式会社 総務部 Tel : 03-5946-8000